

千年の森便り No.181

2018.08. 25

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

8月19日(日) 晴 夏のきのこ観察会

県立中央博物館の吹春先生を講師にお招きしての公開行事、夏のキノコ観察会でした。

一般参加のお客様は里山カレッジ受講者、千葉菌類談話会など多方面から16名 迎える側の当会会員17名 講師ご夫妻含め総勢35名で開催されました。

キノコは秋だけのものと思われ勝ちですが、冬に出るものもあり、勿論夏には夏のキノコあります。ただ今年の夏は異常で、6月末には梅雨明け、7月は殺人的な猛暑続き、8月も初めは猛暑でしたから、乾燥し過ぎて観察会が開けるか不安でした。幸い8月7日前後に台風13号がもたらした雨があったので、やや安心しましたが、当日の林内は矢張り乾燥気味でした。それでも目利きの皆さんが丁寧に探せば、獲物が見つかるもので、午後の同定会用に広げたブルーシート上にはそこそこの数が並びました。

ベニタケ類、テングタケ類、イグチ類が多く、中でもキイロスズメバチから発生した冬虫夏草が異彩を放っていました。あれを見つけて、しかも蜂が付いたままの完全な形で掘り上げた人(昨年来千年の森きのこ観察会皆勤の東京の女子高生)の眼力と努力に驚きました。中央博物館で立派な標本になると思います。



林内にマムシが2匹いて、その中の1匹が移動してくれないので、人間の方が観察コ

ースを変えたり、トンボが同定会に飛び入り参加したりと思わぬはプニングがありました。それ程暑くもなくヤマビル被害もなくて何よりでした。キノコ解説の吹春先生ご夫妻、解説補助をして下さった中島様、遠路はるばる参加して下さいました皆様ありがとうございました。

夏のキノコ観察会にリスクは付き物、これに懲りずまたのお越しお待ちしております。(坂本)

○豊英島のきのこ観察



私は講師の吹春先生と一緒に回るグループに加わりました。

「私が来るとキノコがないんです～」という吹春先生のジョークが出るくらい、今回はキノコ少な目でした。(といっても30種類程度は見つかったと思いますが。)きのこは雨が沢山降った後一気に出るのですが、しばらく晴天続きだったせいだと思います。でも豊英島の森は、千葉県でも希少なきのこが出る老成された森。今回も、この森が東南アジアのシイ・カシ林とつながっていることを証明するハイカグラテングタケやボタンイボタケなど貴重なきのこが見られました。

またツチアケビとナラタケモドキがセットで見れたのも感動しました。ツチアケビは、ナラタケモドキに寄生するラン科の植物。ナラタケモドキの地中を走る菌糸束に根を絡ませて栄養分を貰って育つそうです。葉も

つげす、完全に養ってもらっているのにソーセージ大の真っ赤な実をたわわに付けていました。他人（というか他菌）に頼りきるツチアケビの厚かましさに呆れるのですが、これだけ育てるナラタケモドキの菌パワーも恐るべし! と思ってしまいました。



ポタンイボタケ



ツチアケビ観察(坂本)



ナラタケモドキ



豊英湖で立ち枯れの木

今回の観察の途中で見たダム湖の風景が印象的でした。今日はダムの水が少なく、ダムに沈んで立ち枯れた木を見ることができました。水につかっているために50年たっても、まだ立っているんですね。

(中田真也子)

○吹春講師の解説概要

いつものように、「顕微鏡を使わないやわらかいきのこのわけかた」の資料を基に、参加者が採取したきのこについて吹春講師に解説していただいた。なお、今回は資料として「きのこの教え」も配布され、一部はこの資料を使ってお話があった。以下は解説の概要です。

・ベニタケ科

きのこは基本的に縦に裂けるが、この仲間は丸い細胞が多く縦に裂けない。食べると歯ごたえが悪く、もそもそした感じ。

みなさんベテランなので、ルスラ（ベニタケ属）、ラクタリウス（チチタケ属）と覚えると、人に自慢できる。名前がつかないものも多く、今回は特徴のあるウコンハツ、カワリハツのみ名前がついている。

ブナ科の外生菌根菌で、最も種類が多く優占する。島で見られるトサノクロムヨウランもベニタケの仲間と共生している。

・キシメジ科

今回はナラタケモドキが採取された。食べられるので必ず覚えてください。ナラタケと違ってツバがないのが特徴。木材を分解する強力な菌で、黒い菌糸束を張り巡らせて倒木や切り株を探索する。ツチアケビは、この菌から養分をもらっている（きのこの教え参照）。

・テングタケ科

テングタケの仲間は、ツボとツバが特徴。今回は種類が多い。シロオニタケ（外被膜はイボ）、コテングタケモドキ（毒と書かれているが中毒した人はいない、傘の表面を見るだけでわかる）、ヘビキノコモドキ、ハイカグラテングタケ（最近になって中国で記載された）、ツルタケ（ツバなし、ツボあり）、オオツルタケ（ツバなし、ツボあり、ヒダに縁取り）。カブラテングタケは柄の根元が膨らむ。千年の森が東南アジアのシイカシ林とつながっていることを示すきのこ。ドクツルタケ（目録ではシロタマゴテングタケ）は猛毒菌。また、今回は採取されなかったが、タマゴタケは北のものと、関東から西のものでは異なっているという話があった。



吹春講師の説明



カワリハツ



コテングタケモドキ



ハイカグラテングタケ(坂本)

・イグチ科

ヤマドリタケモドキは最初に覚えなくてはいけないきのこ。おいしい。柄全体に網目がある。ベニイグチは千年の森を代表するきのこで、ほかではなかなか見られない。セイタカイグチはあまり干葉に出ないきのこ、柄の網目に特徴がある。アシナガイグチは日本で記載されたきのこ。アカヤマドリ（今回採取されたものは傘の割れ方がよく見られるものと異なっていた）とコガネヤマドリはよく似ているが、匂いが違う。ニガイグチは種類が多い。ニガイグチモドキは管孔が紫色。キクバナイグチは3種類に分けられる。イロガワリも名前がつかない。キヒダタケは傘の裏がヒダになっているが、これは管孔がヒダになったもの。イグチの仲間には木材腐朽菌もある。環境によって腐生菌になったり外生菌根菌になったりする。イグチ、テングタケ、ベニタケは、成熟した森に出る（ヤマドリタケモドキは別）。



ヤマドリタケモドキ



キクバナイグチ

・その他のきのこ

ボタニイボタケは、傘の裏をよく見るとイボイボになっている。東南アジアとつながるシイカシ林のきのこ。冬虫夏草が見つかった。キイロスズメバチから出たきのこ。ニセキンカクアカビョウタケは、画鋏のようなきのこが見つかった（福島）



冬虫夏草



イロガワリの仲間

8 頁に吹春講師に記録いただいた当日のきのこ目録と画像掲載しています。

ノウタケやシロオニタケ、コテングダケモドキなどに出会えて大満足

友塚新樹さんの Face Book ちば里山_People より一部転載



らホテイ岬を見るのは新鮮でした。

アンパンマン？焼きマッシュマロ？ノウタケが凄すぎる！キノコハンターの見習いは、今年も豊英島にやってきました。8月に上陸したのは初めて。蒸し暑くもなく、心配されたヤマビル被害にも合わず、幸いでした。豊英湖の水位が下がって湖底も露出。”湖底”を歩いて湖側か



豊英湖の湖底は露出



ノウタケのアンパンマン？



今日の宝物 シロオニタケ



金色に輝くコテングダケモドキ



楽しい昼の時間

さて、どこがきのこポイントが分からないので、最初は吹春先生と一緒に回らせていただきました。例年よりきのこが少ないと会の方は残念そうでしたが、不思議な形のノウタケやシロオニタケの幼菌を自分で見つけ、金色に輝くコテングダケモドキ、スズメバチ？の冬虫夏草など珍しいきのこに出会えて個人的には大満足。気がつくとい人できのこを探し回っていました。秋の観察会にも参加しますよ～！（友塚）

千葉の秘境探検!!

石田正美さんの8月19日 Face Book より一部転載



連休最後の日曜は、最大のお楽しみ、千葉の秘境探検!! (笑)

「ちば千年の森をつくる会」主催の🍄夏のきのこ観察会に参加させていただきました。

君津の豊英島(とよふさじま)は研究調査用を除いて動植物の持ち出し持ち込み禁止区域、夏・秋の2回しか入れない貴重なチャンスです。

千葉県立中央博物館の吹春先生と、きのこ図鑑も出している中島さんの解説もあり、勉強になります。早速2匹のマムシ君の出迎えを受けて、やや緊張のスタート。夫を連れて来なくて良かった、と内心ホッとしました。到着して直ぐに帰るのは残念過ぎますからね。ところで、夏にきのこ?!と思われる方も多いかと。きのこは秋だけではないんですよ〜。昨年の夏に比べ高温少雨の今夏はかなり少ないとのことですが、それでも収穫はご覧の通りです。

森の中で初めて赤紫色の美しいベニグチや、鮮やかな黄色のウコンハツに会えた瞬間は何とも感動的♥
♀来て良かった〜!!



ベニグチ



ウコンハツ



ヤマドリタケモドキ



ノウタケ

Web サイト図鑑の紹介

千葉菌類談話会 中島淳志さん

昨年秋に続き参加させていただきました、アマチュア菌類愛好家中島です。発生量が少なかったのは残念でしたが、秋とはまた違ったきのこを見ることができて良かったです。

吹春先生の解説に割り込んで宣伝させていただきましたが、改めて山と溪谷社のWebサイト『図鑑.jp (<https://i-zukan.jp/>)』のご紹介をさせていただきます。このサイトは、複数の図鑑を種名などから横断検索することができるサイトです。例えば「ベニテングタケ」で検索すると、それが載っている図鑑全てを一度に見比べることができます。菌類以外にも植物、野鳥、昆虫などのジャンルがあるので、きのこに限らず、生き物にご興味のある方は一度チェックしてみることをお勧めいたします。菌類はまだ掲載図鑑数が少ないことが難点ですが、システムとしては画期的だと思うので、ぜひ盛り上げていきたいと思っています。会員制(有料)ですが、掲示板については会員登録なしでも閲覧でき、無料の会員登録を行うと投稿も可能です。

現在、「きのこの王様！ テングタケ属キャンペーン」という企画を実施しており、掲示板にテングタケの仲間を投稿すると…何と！吹春先生からのご回答がいただけるかもしれません。期間は2018年9月30日までです。また、私もこのサイトで「きのこ分類最前線」という、アマチュアには身に余るテーマで不定期に連載させていただいており、現在2記事が公開済みです。そのうち一つはテングタケ属キャンペーンとの連動企画ということで、テングタケの概略をご紹介します。マニアック全開の内容ですが、ご興味がありましたらご覧ください。

・テングタケ属 –きのこの花形、新種も続々！

<https://i-zukan.jp/columns/132>

・DNAによって変わるきのこの分類

<https://i-zukan.jp/columns/126>

ところで、今回の観察会で採集されたきのこのうち、USB顕微鏡で撮影した「ひだ」や「管孔」の写真につきましては、これまで私が撮影してきた全ての写真とともに公開しています。

(<http://mycoscouter.coolblog.jp/daikinrin/HP-Dino55.html>)

このページで「千葉県君津市」と表示されるのは千年の森のきのこです。CC-BYという、かなり自由に再利用頂けるライセンスを付与しているので、よろしければご活用ください。

〇昆虫観察記録

今日のハイライトはヤブヤンマ。私は残念ながら見られませんが、キノコを並べたブルーシートに何度もやって来て、キノコ(セイタカイグチ)の傘に産卵したとのこと。栗山さんと、産みつけられた卵を探しましたが見つかりません。傘の中に産卵をしたのでしょうか。花は少なく貴重なナガバノコウヤボウキの花には、イチモンジセセリが頻りにやって来て、オスがメスにプロポーズ。ハラアカヤドリハキリバチというハチも姿を見せました。秋元さん、福島さん、中田家の皆さん、ご協力ありがとうございました。



イチモンジセセリ



ハラアカヤドリハキリバチ

ダム湖周辺の観察

今日は水位が低く、ダム湖の干上がった地面に降りて歩いてみました。ウスバキトンボが飛び交い、地面にはヒメタニシと思われる貝殻が無数に散乱しています。大きな二枚貝の貝殻(殻長10cm)はドブガイでしょうか。水辺ではギンヤンマが産卵している様子。石をひっくり返すとオオマルガタゴミムシが数頭隠れていました。イヌエンジュの葉が食べられており、犯人を捜すとオオエグリシャチホコという蛾の幼虫がいました。木の葉にオオヤマトンボの羽化殻。大きいので測ってみると41mmもありました。そういえば、以前ダム湖を悠然と飛んでいたことを思い出しました。



ドブガイ?



ギンヤンマ



オオマルガタゴミムシ



オオエグリシャチホコ



オオヤマトンボの羽化殻

(他に観察された昆虫)

シオカラトンボ、アジイトトンボ、オオカマキリ成虫・幼虫、サトクダマキモドキ、ツクツクボウシ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ウスバカゲロウ、カブトムシ、オオセンチコガネ、センチコガネ、キマワリ、カナブン、アオハナムグリ、エグリゴミムシダマシ、クロマルエンマコガネ、クマバチ、キアシナガバチ、コアシナガバチ、キオビツチバチ、トックリバチの一種、モンキジガバチ、



ムラサキシジミ(栗山)

ムネアカオオアリ、トゲアリ、アミメアリ、スキバツリアブ、トラフムシヒキ、ヤマトシジミ、ムラサキシジミ、キタキチョウ、サトキマダラヒカゲ、メスグロヒョウモン、ヒメウラナミジャンメ、アシベニカギバ
(田島)

○ヤンマの不思議な行動

キノコ同定会用に広げたブルーシートの周辺を飛び回る大型のヤンマがいました。

時々落ち葉にとまって尻尾の先を擦り付ける姿はまるで産卵しているように見えました。

同定会が始まると今度はシートの上でホバリングしたり、並べたキノコに掴まって矢張り産卵行動と思える動作を繰り返していました。産卵しても水の無い所ではヤゴが育てる筈はないし、何とも不可解な行動でした。



もしかして、ブルーシートの反射光を水面と誤認したのでしょうか。

虫に詳しい田島さんは別行動していて現場にいなかったので、この不思議な行動が見られず、残念がっていました。ヤンマが止まっていたキノコをよく見れば卵が付いているか分かったのに、この点も田島さんに言われるまで思いつかなくて後からでは確認できず、これまた残念でした。

ポーと生きてんじゃねーよと誰かに叱られそうです。(坂本)

○センサーカメラの画像

3台のカメラに合計686カットの画像がありましたが、セグロセキレイの幼鳥が1カットのみで、その他に活動日の人物が数枚、残りは全て空振り画像でした。日中に強風が吹くと木が大揺れして影が動くので、センサーが誤作動した結果です。

セグロセキレイも本来なら空振りの中に偶然写り込んだものでしょう(坂本)



セグロセキレイ 7/16 センサーカメラ

○ヘビが3種

今回はヘビが多く観察されました。ニホンマムシ2匹、ヤマカガシ(小さい)、ヒバカリ(小さい)の3種です。ほかに、シマヘビのようなヘビを見たとの情報もありました。(福島)



ヒバカリ



シャシャンボ(栗山)



ヘクソカズラ(秋元)



クリの実(秋元)



ゴンズイ(秋元)

トサノクロムヨウラン/クロムヨウラン

本誌 1 月号に既報の通り、神戸大学末次先生は、クロムヨウランは蕾のまま自家受粉するため花を咲かせない。開花する（花がきちんと開く）のはトサノクロムヨウランであるとし、特殊な生態を持つ植物であることを明らかにされました。（詳しくは下記 URL をご覧ください。）このことから千年の森でクロムヨウランとしてきたものはどちらなのか、または両種があるのか調査を始めました。

7/29 に続いて 8/19 キノコ観察会のおり開花株 蕾の株について千年の森広場と巨木林内について調べましたが、8/19 見たものはすべて蕾で、開花した株（トサノクロムヨウラン）は見つかりませんでした。7/29 に開花していた株（トサノクロムヨウラン）の 4 株については今回 2 株に蕾のみであり、残りの 2 株については未熟の蒴果が付いていました。

7 月に開花株があったことから、トサノクロムヨウランがあることは確認されましたが、クロムヨウランがあるかどうかは確認できていません。

確実な調査方法は未開花の株を結実するまで継続観察するか、連続撮影ですが今年は実行できていません。（栗山）



トサノクロムヨウラン
(7/16 栗山)



開花せずに実をつければクロムヨウラン
(8/19 真鍋)

下記の神戸大学の研究速報をご覧ください。クロムヨウランが開花するまでの連続撮影の動画も見れます。

http://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2018_01_11_01.html

トチアケビのモニタリング

千年広場南の 3 株のみが健在で、7 月同様、果実 34 個つけていました。夏のきのこ観察会参加者が関心を持って観察し、吹春講師がナラタケやナラタケモドキに栄養依存する、菌従属栄養植物であることなど説明されました。

食害防止の必要はなくなったので、鳥などによる種子散布を妨げないように、食害保護金網を撤去しました。（真鍋）

（トチアケビのモニタリング記録はちば千年の森をつくる会ホームページの「豊英島のトチアケビ」をご覧ください）



トチアケビ(栗山)

お知らせ

09 月定例活動日 9 月 17 日（祝）9 時 30 分 君津市清和自然休養村管理センター集合
シカ個体数調査、環境整備（危険木処理）、ギャップ林下草刈り 植物・野鳥・昆虫調査

010 月定例活動日 10 月 14 日（日）9 時 30 分清和県民の森木のふるさと館駐車場集合、
「秋のキノコ観察会」（吹春講師）を実施します。キノコは研究用以外持ち帰れません。
詳細は千年の森便り次号（9 月下旬）をごらんください。

8月19日千年の森さのこ目録 吹春講師編集

★担子菌門

●ハラタケ目

○タマハリタケ科 (旧キシメジ科)
 ナラタケモドキ
 ○テングタケ科
 オオツルタケ
 カブラテングタケ
 コテングタケモドキ
 シロオニタケ
 シロタマゴテングタケ
 ツルタケ
 ハイカグラテングタケ
 フクロツルタケ
 ヘビキノコモドキ
 ○ウラベニガサ科
 ウラベニガサ
 ○ハラタケ科
 ウスキモリノカサ
 ノウタケ

●イグチ目

○イグチ科
 アカヤマドリ
 アシナガイグチ
 ウツロイグチ
 ウラクロニガイグチ
 オオクロニガイグチ
 キアミアシグチ
 キイロイグチ
 キクバナイグチ
 キヒダタケ
 コガネヤマドリ
 セイタカイグチ
 ニガイグチモドキ
 ベニイグチ
 ミドリニガイグチ
 ヤマドリタケモドキ

○イチョウタケ科

サケバタケ
 ●ベニタケ目・科
 カワリハツ
 ウコンハツ
 ●タマチョレイタケ目・科
 ウチワタケ
 ●キクラゲ目・科
 アラゲキクラゲ
 ●イボタケ目・科
 ポタンイボタケ
 ★子囊菌門
 ハチタケ
 ニセキンカクアカ

以上合計 36種

※クリカワヤシャイグチとしたものはニガイグチ属の不明種でした。

※コビチャニガイグチとしたものは、わたしには、同定できないものです

冬虫夏草 ハチタケについて

ハチタケ (としましたが、同定はできません)。

写真添付します。(吹春)

